

## VI-3

サリドマイドによる肺血栓塞栓症の一例

廣瀬貴之、今井洋介、石黒卓朗、張 高明

県立がんセンター新潟病院 内科

【目的】サリドマイド投与時の重篤な有害反応である肺血栓塞栓症を経験したので、その予防に関する考察も含め報告する。【症例】64 歳男性、約 6 年前から多発性骨髄腫(IgA- ),CSIA で経過観察されていたが、貧血の進行があり平成 16 年末に当科紹介。その時点で CSIIA, Stage3(ISS) と診断し、平成 17 年 1 月から VAD 療法を開始した。3 月までに 3 コース実施したが、治療効果は MR。その後 4 月 11 日からサリドマイド + デキサメサゾン療法を開始した。5 月 27 日(day47)頃から労作時呼吸困難および軽度の血小板減少が出現、肺血流シンチグラムで両側肺に多発血流欠損域を認め、下肢静脈エコーで左右下肢静脈に血栓形成を確認した。進行性の肺血栓塞栓による右心不全を来したため、ワーファリンおよびヘパリンによる抗凝固療法を実施し、胸部 CT で肺動脈内の血栓の縮小を確認した。その後 IgA や骨髄中形質細胞の増加がみられたため、抗凝固療法を併用して、9 月に自己末梢血幹細胞採取、10 月および平成 18 年 1 月に自己末梢血幹細胞移植併用大量化学療法を実施。現在は外来でプレドニゾロン維持療法を実施中で、治療効果は PR。

【考察】日本人においてサリドマイドによる深部静脈血栓症は頻度が低いとされてきたが、化学療法の併用や前治療歴がある患者では予防策を講じる必要がある。本症例以後、当科ではサリドマイド投与と全症例にアスピリン内服を併用し、現在まで重篤な血栓症の発症はない。